PASJ（パブリ）の発展のために

PASJ 編集長　尾崎洋二
（東大理）

昨年の月報4月号でお知らせしましたように，PASJ は1992年度44巻より雑誌のスタイルを改良することに致しました．この改良は，サイズをこれまでのB5判から国際的標準であるA4判へ，また本文を原則的に2段組へ変更するとともに，表紙のデザインも一新するものです（本月報表紙参照）．

そこでこの機会に，パブリについて日本天文学会会員の皆様に一層のご理解を頂き，パブリがわが国の発行する天文学の国際学術誌として国際舞台でさらに発展するよう皆様のますますのご支援を頂きたく，一文をしたためる次第です．

改めて申しあげるまでもありませんが，PASJ（パブリ）の発行は日本天文学会の活動の中で最も重要な事業です．PASJ は日本で発行される天文学についての唯一の国際学術誌であり，日本における天文学の成果を世界の天文学者に広く発表する場として始められ，位置づけられています．また同じように，天文学の分野での世界の先進国はすべてそれぞれ自国（あるいはヨーロッパの場合はグループとして）において同様な天文学の学術誌を刊行し，自分達の研究の発表の場として育てることに努力しています．

振り返って，我が天文学会の機関誌であるPASJ についてみてみますと，徐々にではありますが，投稿論文も増え，内容も充実の方向へきていると思います．一方，ここ数年の日本における天文学の研究の発展は目ざましいものがあり，実際天文学会の年会での講演数は10年で倍増する勢いですし，また，日本人天文学者の海外メジャージャーナルへの論文投稿数もここ数年で急増していることも事実です．ところが，その割に日本での天文学における実力の増加を反映させるほど，パブリへの論文投稿は増えていないというのが率直な感想かと思います．

この原因は，日本人天文学者の書く論文のうち，かなりの数の論文が欧米のメジャージャーナルへ流れているからではないかと思われます．勿論，このこと自体は日本の天文学者の書いた論文が，欧米のジャーナルでも十分太刀打ちできるようになったという意味では喜ぶべきことでしょう．しかし，現在の日本の天文学のレベルはすでにこのような段階を越えて，世界の天文学者からみても日本での研究の動向を知らずしては過ごせない段階に来ていると思います．

実際，わが国独自のプロジェクトで世界的にみても第1級のものとして，宇宙科学研究所のX線衛星 HAKUCHO，TENMA，GINGA，HINOTORI や野辺山電波観測所の45メートル鏡やミリ波干渉計などがあり，すでにこれらの観測装置を使って多くの優れた成果が得られています．そして現在は太陽X線衛星 YOHKOH や電波ヘリオグラフもいよいよ結果が得られる段階になり，さらに日本の天文学界が総力を挙げて取り組んできている大望遠鏡計画 SUBARU もいよいよ動き出しております．もし，このような日本独自の装置による観測結果や理論の優れた論文の多くが欧米のジャーナルに流れ，欧米の沢山の論文の中に散在してしまい日本独自のジャーナルである PASJ がさびれた状態となるようなことがあったとしたら，とても残念なことだと思います．

確かにサーキュレーションの良い欧米のジャーナルへ自分の論文を載せて，世界のより沢山の人々に見てもらいたいという論文著者としての気持ちはよく分かります．しかし，自分達のジャーナルは自分達でもりたてていかなければ，いつまでたってもサーキュレーションのよい雑誌にはならないというのが，学術雑誌自体が持っている宿命だと思います．言い替えると，田中理事長が述べられておられるように，学術雑誌の興亡は一種のインスタビリティで，良い論文が投稿される雑誌は購読数も増え，サーキュレーションがよくなる．サーキュレーションがよくなれば，また良い

論文の投稿が増えるといった正のフィードバックが働きます．一方，これと逆なことが起これば，負のフィードバックにより悪循環に陥ってしまいます．

日本の天文学はこの正のフィードバックを引き起こすのに十分なだけの実力を現在は持っているというのが，現理事会および編集部の認識です．そこで，会員の皆様のご協力でぜひこの正のフィードバックを推進したいと私どもでは思っている次第です．

現 PASJ 編集部としても，このための努力は惜しまないで頑張りたいと思っています．そのための具体的な方策として，

(1) スタイルの改良

国際版である A 4 版にし，より魅力あるモダンな表紙へ変更

(2) LETTER 頁の充実

速報性を要する論文を LETTER として，迅速に出版する．現在，日本人が LETTER として投稿する場合，PASJ が一番速いとの評価を得ています．

(3) 投稿から発行までの期間の短縮

印刷の Tex 化により本文についても受理から発行までの期間を短縮するよう努力しております．

(4) 日本独自のプロジェクトについての特集号の発行

PASJ では，これまで X 線衛星 TENMA，GINGA の二つの特集号を出版し，これらは大変好評でした．現在，数値シミュレーションの小特集号および野辺山ミリ波干渉計特集号を発行する予定です．さらに，色々日本独自のプロジェクトがあり，このようなプロジェクトの特集号も出したいと考えています．

(5) 年間発行号数の増加

パブリは現在年 6 冊の発行ですが，投稿論文を増やし年 12 冊発行までもっていくのを当面の目標にしたいと考えています．

以上，編集部からのお願いばかりになりましたが，どうか会員の皆様も PASJ についてご理解をいただき，PASJ によりよい論文を沢山ご投稿下さいますようお願い申し上げます．また，パブリの編集に対するご意見がございましたら，パブリ編集部宛に率直なご意見をお送り下さいますようお願いいたします．

☆

☆ ☆ ☆

☆